

1. 山あいの盆地に生まれた産業

- (1) 資料Ⅰを見て、気付いたことを挙げてみよう。

(例) 桑がほとんどみられなくなり、果樹の割合が高くなった。

- (2) 1950年に作付面積の約1割を占めていた「桑」とは、どのような場所で栽培されていましたか。また、それはどのような目的で栽培されていたものだろうか。

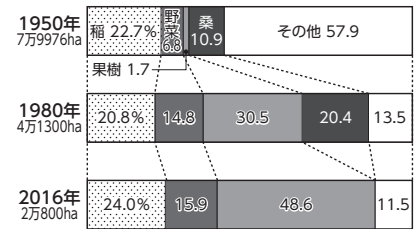
場所： 扇状地

目的： (例) 蚕のえさとして与えるため。

- (3) 山梨県で栽培が盛んな果樹の例を挙げ、果樹の作付面積の割合が増えてきた理由を考えてみよう。

果樹	理由
(例) ぶどう 桃 など	(例) ・化学繊維の普及などによって製糸業が衰退したから。 ・扇状地は日当たりや水はけがよく、果樹栽培に適しているから。

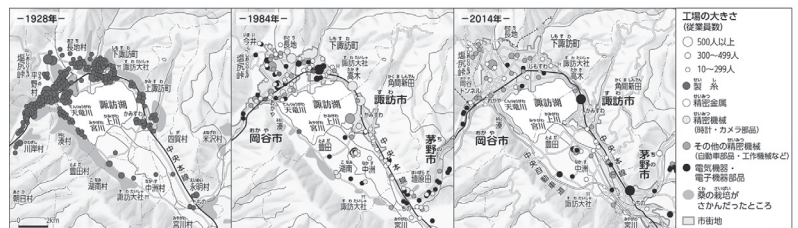
資料Ⅰ 山梨県の農産物の作付面積の内訳の変化



2. 製糸業から電気機械工業へ

資料Ⅱや地図帳を見て、諏訪盆地でどのような工場が多くみられるか、下の表にまとめてみよう。

資料Ⅱ 諏訪湖周辺の工業地域の変化



① 1928 年	② 1984 年	③ 2014 年
製糸	精密機械	精密金属 電気機器・電子機器部品

3. 涼しい気候を生かした高原野菜

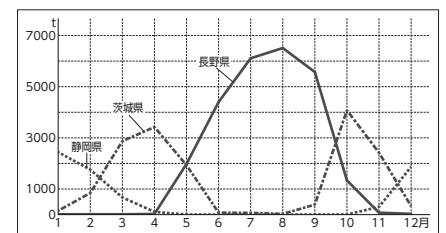
- (1) 長野県でレタスの栽培が盛んな地域を挙げてみよう。

(例) 野辺山原や浅間山周辺など、標高 1000m を超える高原

- (2) 資料Ⅲを見て、長野県から東京の市場に出荷されるレタスの量が夏に多い理由を説明してみよう。

(例) レタスは、気温が低く寒暖差の大きい気候での栽培に向いているから。

資料Ⅲ 東京へ出荷されるレタスの量



本時のまとめ

◆ 中央高地の産業の変化を、「製糸業」、「精密機械工業」、「電気機械工業」の語句を使って説明しよう。

(例) 中央高地では製糸業が盛んだったため、扇状地を中心に桑の栽培が行われていたが、山梨県では製糸業の衰退とともに、果樹栽培が盛んになった。また、長野県では製糸業の衰退から発展した機械工場で培った技術を基にして精密機械工業が盛んになり、現在では高速道路に近い地域で電気機械工業が盛んになっている。